

新累解脫物語

九

^13
3912
5



13
3912
5

新累解脫物語卷之五

東都

曲亭馬琴纂系

第九

人面瘡氣を吹く葶續自殺を
地藏井現化しく烏有初て顯る

婦人小常の善悪あり。只妬よよと。百邪を生むと宜るなり。さそ七葶續の
与右弟つが妻とるじより。念さ昔小立まらり。よろづ信す小齊眉りれど。
夫もちどれこそとの色のと小惑心ひく志を移しられ後ま怜物しく小ん
引さく。かりよりるの忘さ。夫婦の睦さ。更よはかへもあむん加禱
既小四才の春をむく。暑く寒く。成まる。こけあれば。これを愛
の隙も勝さる。けふとの面影は。父は肖らうとも。又母小肖らうとも。
けつりるべは。あむね。れ外。の第より出らん。赫変姫の童。ごちと。いふとも。是



新累解脫物語卷之五

新編 解脫物語卷之五

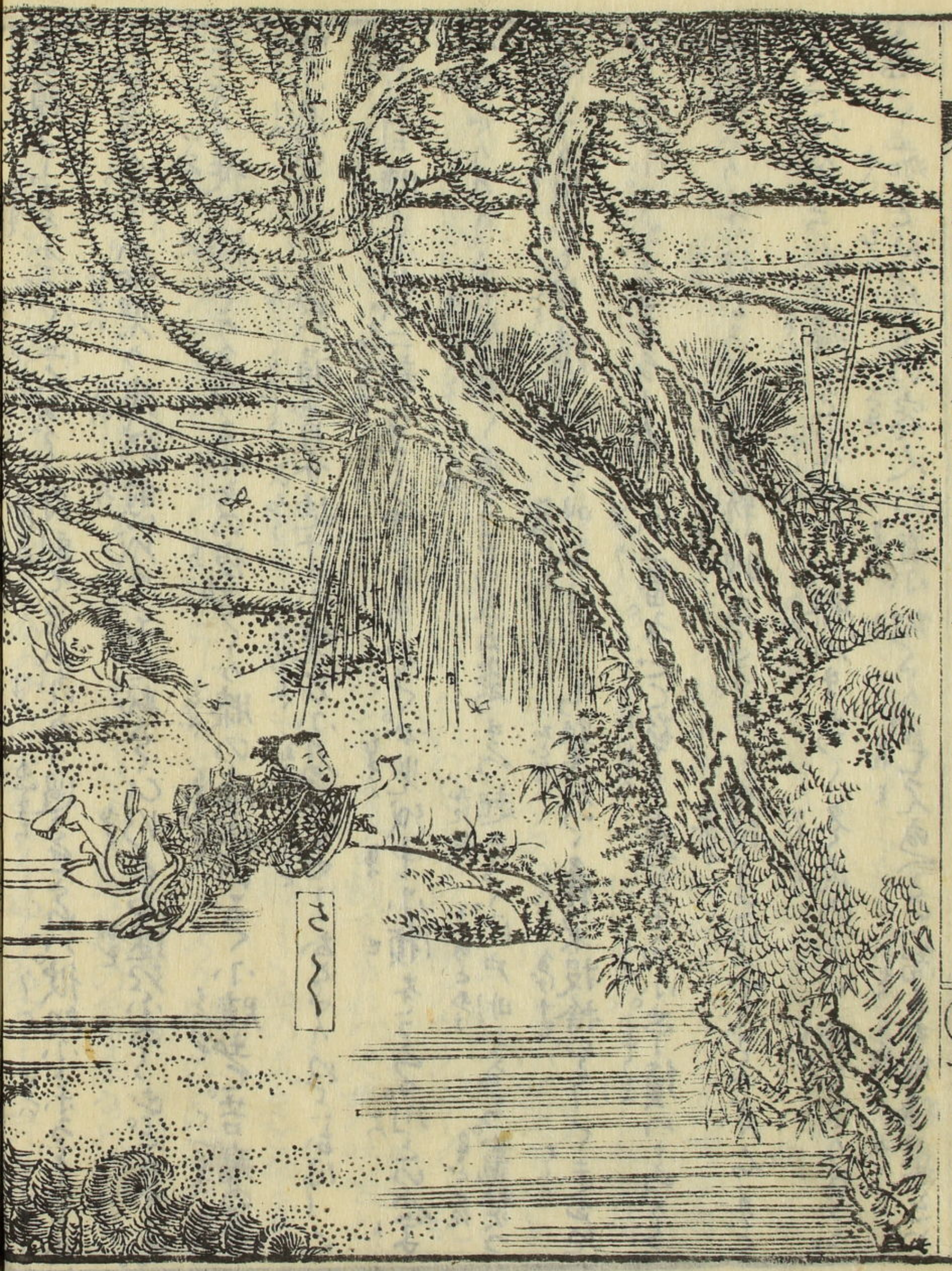
玉乃
芝乃
柳



子右衛門

きり

新編 解脫物語卷之五



きり

け小目もはゆりて髪長ず小生るが。女の面影小異るし。と。子右衛門あま
 小浅ましくつづく。と。ちまのり。と。せふの。人面瘡ある。と。それまづは思
 寺村小到りて。旧男小まじやさん。月よく。田宇あめといひりて。直小清三
 帛が家小走りの。縁由致物ご。と。清三帛夫婦。ちよ。と。子右衛門
 と。小慌しく。羽生村小来より。と。は。彼此の老弱ら。の。と。は。せ。く。
 くれむ。と。子右衛門が家小集合。と。は。後。と。ま。り。の。不。と。死。と。門。小。互。在。
 或ハ紙窓小孔を穿。或ハ壁の隙小面をさ。著。外の方より。と。を。
 へ。と。の。と。は。清三帛の孫が。人面瘡。と。と。ん。か。う。と。その妻小。り。り。り。の。牙
 竹。と。う。と。ひ。あ。か。の。瘡。の。面影。の。よ。九。衛。門。が。前。妻。あり。珠。雞。は。似。る。小。あ。り
 也。と。い。ひ。も。果。ね。小。人。面。瘡。の。階。る。人。の。ぞ。可。と。う。ら。笑。ひ。く。や。を。れ。清。三
 帛。それ。は。も。恨。み。ぬ。あ。い。ど。む。と。う。夫。婦。玉。芝。小。と。ち。ま。と。い。飽。す。と。
 強顔小堪ぬ。と。遂ま。影を隠。る。成。ち。う。ま。と。は。阿。容。と。と。媒。と。
 彼。小。縁。一。結。ま。り。へ。是。つ。あ。る。と。や。は。り。親。族。の。信。を。か。り。と。と。と。と。
 二言ハ諫めえさ。原。と。九。衛。門。の。誓。し。と。八。石。目。の。田。圃。が。父。の。賜。ある
 と。は。久。く。管。領。り。因。て。一。と。と。の。怨。を。復。さんと。と。い。う。と。折。を。は。と。と。と。
 二十餘年徒小過。と。と。と。今。は。が。孫。を。悩。し。又。は。が。女。児。を。苦。し。め。と。と。と。恥
 と。と。と。後。悉。く。殺。さんと。す。り。の。と。中。へ。答。へ。り。と。と。と。と。罵。る。声
 の。珠。雞。小。あ。ま。り。も。遠。ね。は。清。三。帛。の。も。と。と。と。妻。も。只。願。悔。れ。と。と。と。
 と。人。の。後。小。餘。ま。り。と。子。右。衛。門。の。故。を。ま。り。と。り。と。と。と。不。実。由。と。學。績
 と。小。清。三。帛。が。袖。を。引。く。今。人。面。瘡。の。物。の。を。と。と。と。や。が。り。因。縁。ある
 う。と。お。ぼ。し。と。玉。芝。と。い。ひ。の。人。と。や。ま。り。と。い。ひ。小。清。三。帛。止。う。と。と。
 と。と。と。と。講。べ。た。助。の。れ。は。遂。に。口。を。は。告。り。た。彼。玉。芝。の。元。來。管。領。家の

新編源氏物語卷之五

三

浪人小松戸丹下とのりめの子児ありしが。如此この故のり。丹下の旅路一
病死し。玉芝の累が父と尤危つが家小艱連する小と尤危つ密よられと相
語らひく。前妻珠羅を追ひうへひぬ。その後又くろのありしと玉芝
が西入玄冬と走りくろの亦と尤危つらその仇を復さんと武藏のこ
起た宿志をぬ遂むく。帰る来る前夜累が火傷して生れもゆぬ
醜女とゆりし。一五一十説示曰。子右危つやう。皆奴殿と打是は物小の
因縁のありくよ。その玄冬と玉芝の父母今に匿果た小ゆらぬ小首
尾を交えゆべとく。玄冬が淨洲寺小寓居く名を権と承と更め。十
葉惟胤の息女田系姫小とられく。彼家小仕し。又玉芝の権と承小先
千葉家小給事。田系姫往方くありと後権と承の嫡妻とる
。その後十六年を行く。墨田川に朽瓦瓦る。或は初死す小。或は面
つらつとく。と雷よ物く。今将かへつ身亦累以妻とる。こく
父が田系権を追う。報くありんと。こくも小怒で平續と
縁に結ぶく。この禍を醸るも。それと巨んと悔歎けほく。近
御人への物くふりけ。されど積悪の餘殃がのく。その小報ひた
どかるとべしと私語の小。清三郎夫婦の物のかつ。こく。回答も
平續の印幡がゆ。影護て。惘然とく居る時。も沙平は小のや
近くゆく。喘く走り来つ。群がらなる。門の方の人をうれ。て裡へ入。ち
ホと對つ。僕く。とれ。ある醫師小ゆる。その人面瘡を患む
のあり。どの瘡飲食する人のく。百計すれ。ほゆる。と武
種。の茶劑を。その小伏入る。小。これに尊。只貝母小至。を
結く受。遂小貝母。法だうけて。立地小愈。と。今彼知の茶

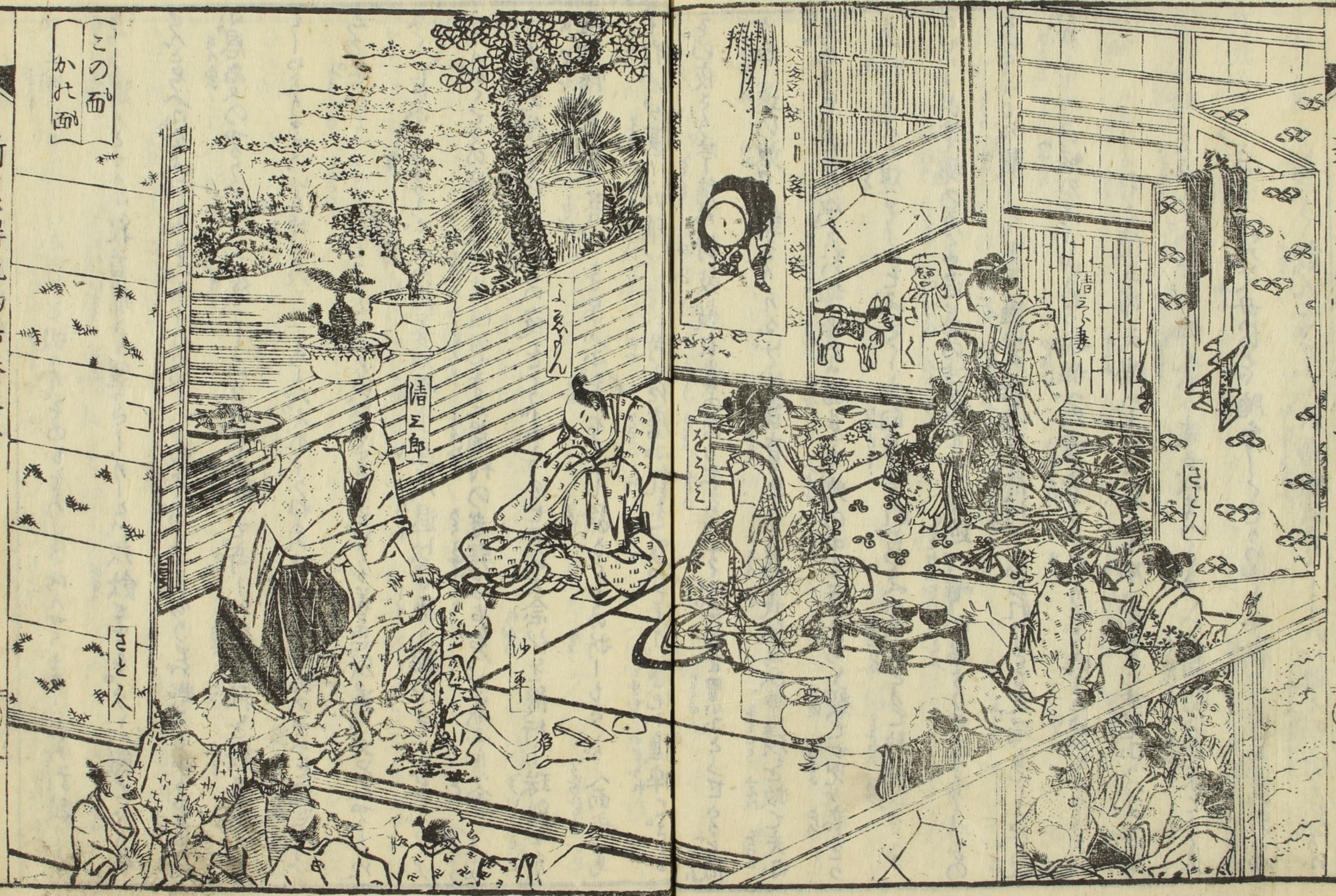
（Transcription of the text from the left page, which continues from the right page)

店より、件の薬と買末せり。とぞ人々。が療治する或人あり。はとり小のや
 ちの懐より一包の粉茶飲せり。これを管小詰しく吹く。けんとする。小人面瘡眼
 を眺らし。汝平汝さ。疾視する。その面を忽地変じ。声音を果小異
 しく高き。罵る。その白徒あどかくありける。汝利小惑く。情三昂
 夫婦小相語れ。右也つ。さとのつと。が横尻に収匿す。芋績小媒杓せり
 恨目へ。あひあ。とむ。とむ。汝平。ち。驚。れ。走。り。退。ん。と。す。ん。過。て
 管より。咽喉を突破り。吐んとまれども。泣く。俯仰。苦む。衆人。走り
 うり。救んとまれ。汝平。一。声。あ。呼。血。吐。と。駭。く。撲。地。と。倒。れ。死。せ。り
 る。これ。お。ん。の。ま。駭。然。と。く。舌。を。卷。藏。せ。り。所。汝。あ。ど。ど。が。中。小。田
 縁のり。汝平。が。死。を。昇。り。く。出。臆。く。その。家。小。送。り。ぬ。れ。れ。ども。右。也。つ。は
 及。歳。より。武。家。子。は。く。む。さ。の。勇。り。り。れ。り。人。面。瘡。小。ら。對。ひ。汝。に。れ。殊。難。の
 累。う。り。累。あ。い。く。と。そ。れ。と。対。して。物。辨。ぬ。く。汝。若。し。假。初。小。媒。ら。汝
 平。の。と。殺。せ。り。と。の。小。彼。瘡。芥。と。れ。殊。難。と。あ。ら。う。ら。う。も。あ。ら。む。又。累。小。あ。ら
 ぐ。ら。わ。の。と。女。と。汝。平。清。三。昂。小。収。る。と。れ。れ。殊。難。或。は。田。系。姫。と。累。又
 芋。績。を。入。る。と。れ。或。は。印。幡。或。は。累。う。り。田。系。姫。の。聊。も。過。る。と。て。權。と。坐。が。奸
 計。小。播。り。遂。小。と。老。弟。小。殺。せ。れ。ぬ。ま。づ。權。と。坐。小。玉。芝。殺。せ。り。亦。与。老。弟。が
 其。の。累。を。枉。死。と。也。は。權。と。坐。が。一。つ。ある。汝。を。苦。む。く。因果。觀。の。理。を。示
 べ。亦。彼。山。梨。印。幡。が。芋。績。小。謀。られ。累。が。夫。と。殺。せ。り。か。の。父。の。惡。報。小
 ち。の。あ。れ。ど。殺。す。の。亦。邪。ある。故。よ。互。小。怨。を。憑。の。も。れ。累。に。恩。交。事。に。芋。績。を
 救。て。夫。を。恙。あ。ら。う。と。ら。女。過。く。れ。を。須。川。小。殺。せ。り。天。を。あ。ら。う。く。咎。る。小。足
 ら。せ。只。憎。ぶ。は。累。が。枉。死。隱。す。刺。芋。績。を。妻。と。の。速。小。汝。を。と。ら。殺。せ。り。又
 は。飽。ま。く。憂。せ。ん。と。り。の。あ。ら。う。さ。ら。う。ら。に。四。灵。合。体。して。彼。を。責。め。と。懲。り。せ。り

新編解脫物語卷之五

五

この面
かた面



清三郎

こと入

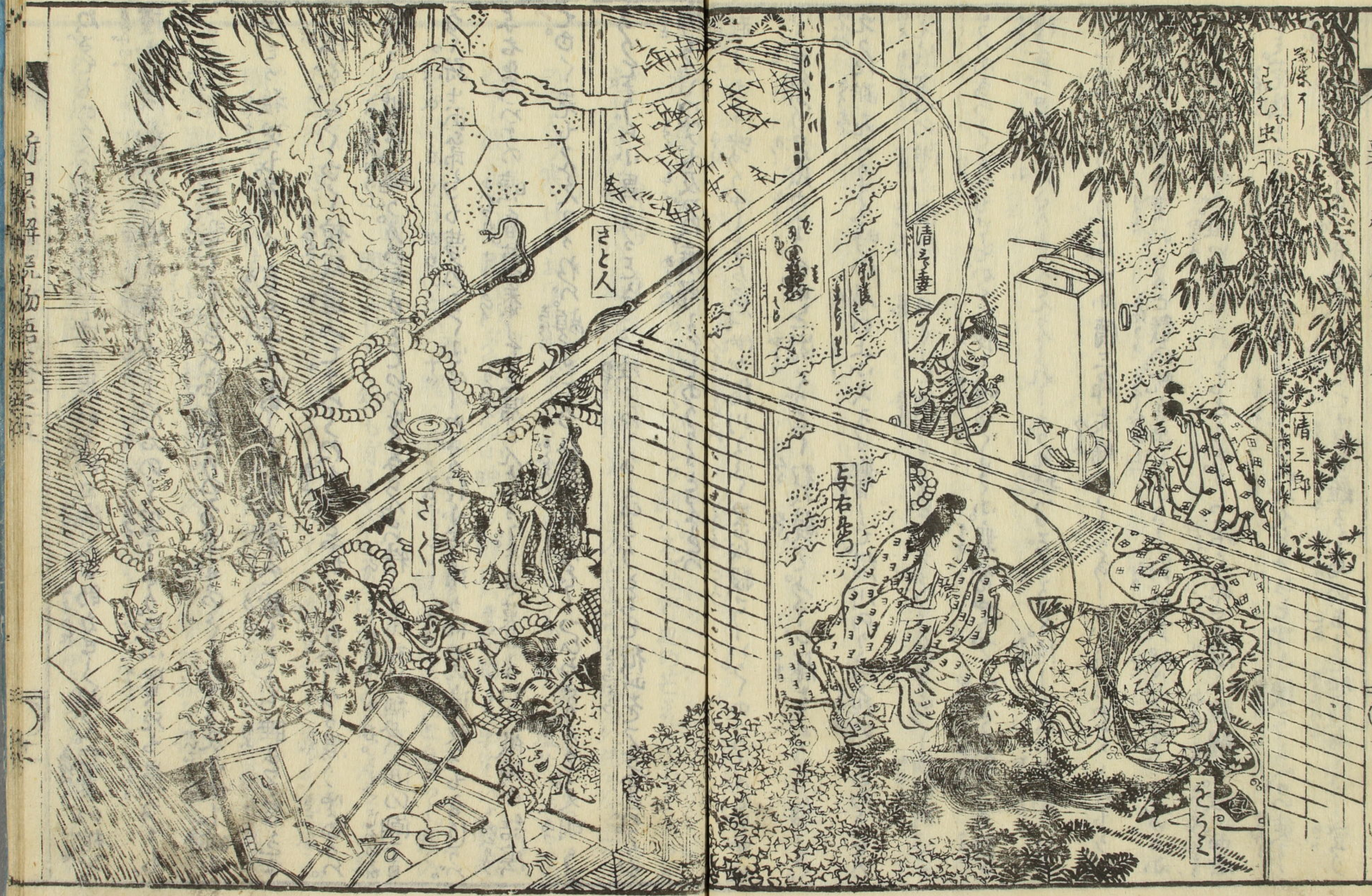
沙平

清三郎

こと入

口を閉じし。さうよけ小乳を吸り。そのおそろいさけんや。あつねが。引放しく
 走り退んとす。小乳首痛く堪ざり。うりこれ飲まざる。さうい餓と死りや
 見とちみ。むよりむまぶ。あつねが。かひり。寔小入のまあり。む野ふも山も。畜ふ
 小恩愛のやう。さあ。て。後。さう。さ。も。厭。む。奇。に。瘡。小。乳。を。飲。ま。ん。り。
 ち。や。う。の。い。と。惜。し。ん。と。ま。ぶ。人。の。う。れ。の。禱。る。う。一。物。の。哀。れ。の。悲。し。う。ど
 ち。と。古。歌。う。ま。は。れ。ど。も。り。の。成。り。さ。う。ま。ぶ。が。善。悪。成。遂。小。又。と。ひ。さ。り。た
 る。て。こ。い。へ。さ。う。さ。う。く。小。入。り。の。善。成。終。一。悪。成。退。け。子。孫。小。禍。あ。り。ま。ぶ。と。さ。う。さ。う。さ
 小。あ。ん。か。く。と。の。夜。さ。り。羽。生。は。因。心。寺。二。箇。村。の。老。弱。と。右。弟。つ。が。家。小。集。會。て。ほ。藏
 寺。より。老。僧。一。人。中。請。る。の。夜。を。さ。う。と。と。七。日。の。大。念。仏。を。修。行。し。珠。雞。田。系
 姫。印。幡。累。ホ。が。菩。提。を。吊。小。あ。ま。り。も。驗。あ。り。の。折。り。も。さ。う。が。人。面。瘡。罵
 せ。ね。あ。り。其。一。の。補。せ。清。い。奇。に。瘡。小。乳。を。吸。れ。と。う。怒。地。惟。悴。と。ま。ま

餓鬼のさうあり。清三郎夫婦の形容とす。ふつ。せ。も。世。は。悪。力。の。さ。う。
 り。が。あ。り。留。ま。り。と。あ。ん。悔。歎。く。彼。と。え。れ。を。さ。う。さ。う。出。つ。が。さ。う。さ。う。さ。う。も
 ら。り。一。百。万。遍。の。大。念。仏。も。既。に。結。願。の。夜。小。及。び。ぬ。れ。ど。さ。う。さ。う。さ。う。草。積。の。う。肉。脱
 して。多。居。自。在。あ。り。ま。ぶ。か。く。と。の。親。む。も。さ。う。さ。う。存。命。さ。う。も。さ。う。え。ね。ど。田。舎。人。の。言。葉。こ
 そ。あ。つ。ね。あ。れ。信。じ。し。都。の。人。も。さ。う。勝。る。あ。れ。が。御。人。亦。解。ら。ぬ。小。集。會。て。松
 名。と。その。と。は。藏。卒。の。老。僧。と。な。り。小。う。り。の。打。つ。た。ら。他。善。の。言。も。さ。う。功。徳。た
 る。の。病人。を。さ。う。延。ば。し。さ。う。さ。う。な。る。べ。し。今。宵。さ。う。念。珠。の。真。中。小。居。て。回。向
 せ。ま。つ。と。あ。ん。さ。う。さ。う。未。あ。り。の。う。り。と。理。と。と。應。じ。か。く。と。さ。う。さ。う。
 清三郎が妻さうさう。奴抱たま。く。老僧と押あ。り。夥の老弱は圍繞。ま。れ
 ら。り。さ。う。と。も。小。念。仏。を。か。く。と。老。僧。鉦。う。ち。鳴。り。衆。人。異。口。同。音。小。弥。陀。の。宝。子。の
 を。稱。し。ま。り。の。い。と。信。ず。あ。り。その。夜。も。既。小。深。ゆ。く。折。り。七。祖。母。が。膝。小。搔。栗。せ。ら



りさくものふらふらぬが。よ右歩つゝその日。御人の助力せしむ。亡妻の棺を
 撞出。法藏寺の過去帳小空一の名を写し。けふ賢なも思ふ。こも
 つの心え。悲む。と久忘れぬ。ぬるふ。まのく。ぶら。又小伏。亦小
 寝。ち。稚児も。久く存命。ず。あ。ぶ。ん。び。ま。を。黙。こ。う。ら。睡。と。る。な。ま。よ
 へ似。こ。て。く。棺。を。追。入。て。ま。う。つ。ぬ。古。小。と。や。か。く。と。哀。れ。さ。る。限。り。ゆ。ゆ。ら
 くれ。こ。彼。冤。魂。が。の。か。り。こ。と。ら。ら。る。ま。ら。ん。と。精。し。て。も。祖。父。祖。母。の。涙。の。朝。日
 る。弥。生。の。昂。う。も。夢。の。ど。く。小。う。ね。さ。る。程。小。亭。積。か。初。七。の。連。夜。う。も。あ。り。り。ぶ
 と。右。歩。つ。つ。の。睡。昏。暮。未。し。と。多。帰。ら。ん。と。す。る。小。ま。う。も。暮。や。う。ぬ。天。俄。頃。小。結。陰
 て。ゆ。く。先。も。え。え。う。ね。が。顔。ま。こ。う。驚。え。く。ま。ま。う。つ。ひ。か。り。り。る。小。又。明。う
 ろ。う。と。ま。ら。小。異。あ。る。と。ほ。こ。怪。う。ら。あ。と。ひ。う。う。と。ら。と。彼。此。を。入。と。ま。ば。が
 御。ち。う。い。す。も。及。び。ぬ。曠。野。う。こ。ど。あ。り。う。う。と。ま。ま。が

連山森然うら。幾柄り裁ま。ぶ。る。刀。劍。の。冬。枯。野。辺。の。芒。た。ん。く。さ。る。日。の
 光もあ。り。谷。陰。の。雨。相。の。柱。は。紛。拂。う。う。こ。山。を。踏。ま。ぬ。路。も。な。ら。ず。頂
 の。ほ。ら。う。寒。け。く。あ。ほ。え。も。骨。す。べ。く。葉。の。栗。の。ど。く。あ。る。小。園。盧。生。が。夢。も。覚。え
 ぬ。彼。首。う。の。又。圓。江。の。夕。れ。あ。か。小。映。す。鮮。血。の。安。南。圃。う。り。あ。そ。の。狸。絨
 を。や。除。ら。ん。と。う。る。ほど。小。園。腥。れ。風。さ。と。吹。く。鐵。の。烏。嘴。を。鳴。ら。う。頭。の
 上。小。翔。繞。う。小。園。眼。が。ら。う。て。魂。も。身。も。あ。ら。ぬ。あ。は。辛。う。く。走。ん。と。す。る。小。猛
 火。忽。然。と。ゆ。く。先。小。燃。出。く。雷。さ。あ。ど。う。う。く。鳴。こ。る。山。山。明。く。沈。震。く。
 眼。眩。つ。て。え。す。ぶ。た。ま。ま。ど。忙。然。と。る。面。さ。つ。秋。ま。ま。う。た。に。の。壺。盧。或。は。藍
 壺。小。蹴。落。う。る。白。徒。の。迷。よ。異。あ。る。小。園。倚。伊。誓。諾。桃。を。擲。く。走。り。小
 野。管。筆。を。執。く。歸。り。よ。あ。く。ど。の。脱。を。果。べ。う。し。ん。え。さ。り。ら。る。
 そのと。れ。と。右。歩。つ。つ。五。色。の。艱。苦。小。堪。ず。く。お。と。う。く。ら。あ。ら。ぬ。あ。は。は。は。は。と。れ

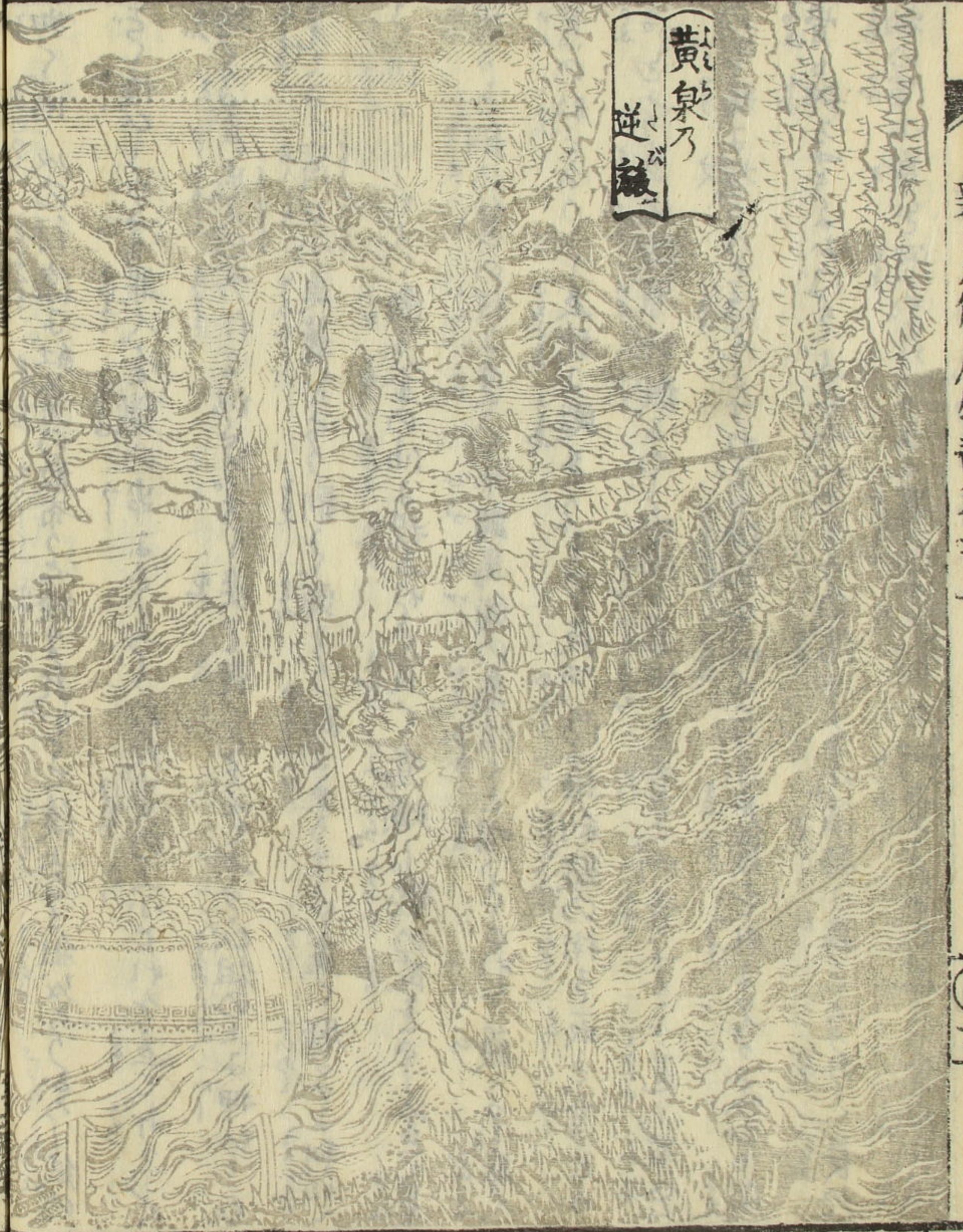
活いきからず無む間かん地ぢ獄じやくももやや墮おらんん南なんをを西せい方ほう弥み陀た如に来らい助すけああ一いつ弥み陀た仏ぶつここと
 ううらら念ねんふふととののりりるる小せう何なんぢ地ぢよりより出いままららんんいいととぞぞげげあるる法ほう師しととああららははららり
 近ちかくくまま在ざいるる。平へいよよ見みるる男おとこよよくく三さん業ごう収しゆ静じやうむむ念ねん仏ぶつととううととううののままととううカカ
 ととははとと聖せい僧そうをを済すまぬぬ倚よりりぬぬととぞぞややるる。母はははは天てん地ぢ須しゆ臈らつ小せう換か盡じんししてて鐵てつのの城じやう
 高たかくく涌う出しすす。鐵てつのの網あみ四よ方ほう小せう張ちやうままるる。東とう西せいのの門かど毎まいはは銅どうのの額がくをを打うちち。第だい一いつのの大だい
 放はな火くわ寺じ第だい二にのの林りん羅ら法ぽう場じやう第だい三さんのの理り非ひ断だん第だい四しのの申まを明めい知ちととななりり。そのそのめ
 裏うらはは牛ぎう頭とう馬ば頭とうのの阿あ房ぼう羅ら刹せつ野や團だん坐ざしし。人ひとままつつ氣きををささるる。婦ふ人にんここのの火ひ
 のの車くるま小せう二に個ごのの罪ざい人にんをを載のせせしし。おおほほ打うち拵じやうあるる獄じやく卒そつどもども。虚こ空くうよりより未まれれりり。待まち
 るる怒どむむるる惡あく鬼おにホホ鐵てつるる組ぐみのの盤ばん石いし小せう等とうたた庭てい小せう置おてて其その上うへはは竹たけのの罪ざい人にんをを
 仰おほせせままよよ引ひ倒たおしし。よよはは鐵てつのの組ぐみ以も重かさねけけくく。鬼おにどもども競こひひひひりり。膝ひざをを屈かふふ。眩くらとと
 伸のびびととああららししつつとと虫むしとと推おししほほどど小せう組ぐみののままががれれよよ。血ちのの流ながれれとと油あぶらををままららししるるが
 如ごとくく。兩りやう反はんのの行ぎやう僚りやうはは紅べに葉はのの散ちり布ふとと怪あやししめめかかてて後のち上うへるる組ぐみななららうう紙かみのの
 ぞぞ推おししららししるる罪ざい人にんをを鐵てつのの串くしままららししららしし。火ほのの上うへ小せうととれれををままてて打うちららししく
 炮かつつ。只ただ危あやししのの所ところ竹たけのの似にしし。よよくく灸あをを乾かくくととぞぞ。かかららしし組ぐみのの上うへはは押おししららしし。あ
 見みるる。背せ肉にく刀たう小せう。臭くさ箸しゆととりり割きらら。頭あたまよりより足あしにに至いたるるまままま。盡じんくく臊さう子し小せう割き切きとと
 けけ。淋しみくくととよよくく激げくく。釜かまのの油あぶらはは投なげげららしし。且かつくく煮ゆ爛らん。鐵てつのの籠かごををささららししてて置おきき
 揚あげげるるとと銅どうのの箕このの裡うちはは受うけけ。牛ぎう頭とう馬ば頭とうのの鬼おに活かくくとと唱なむむ。これこれをを戴かかかるる小せう罪ざい人にん
 舊ふるのの形かたちととああららしし。ままたたもも難なんしし。そのそのとと阿あ房ぼう羅ら刹せつ野や鐵てつのの楮こをを取とりり念ねんむむるる
 声こゑととううままたた地ぢ獄じやく原げん地ぢ獄じやくののややとと。汝なんぢがが罪ざいははをを責せとと呵か責せするるもも甚しんしし。罪ざい人にんとと
 のの苦くるしみ痛いたまま堪たへへららしし。ととははんんととすすれれどど涙なみだ出いででとと叫こゑぶぶ。外そとよりよりささららししてておおもも消しょう
 骨ほねもも碎くだるるややららしし。おおほほええ。よよちちららしし。ああままのの法ほう師し小せう轉てんととりりああららしし。長なが江え
 袖そでのの陰かげ小せう身みをを潜ひそめめ。とといいららししるる罪ざい人にんまま。かかららしし呵か責せするるああひひややららしし。阿あ房ぼう羅ら刹せつ野や鐵てつのの籠かごををささららししてて置おきき。

新編 浄土宗 卷之三



与右

黄泉乃
逆藏



師答之。知しずや彼ホハ母玉芝妻の苧績あり。凡夫ハホのれが智小惑され。生る日の地獄とてても驚くほどなる後のつるは疑ひく。地獄の説を信とてぐ。この故に二六時中。悪業よ超過く。眞罰遂小脱せし。夫家を喪ひ妻よ小別せ。道路よ餓雨露小そぼら。つるの苦辛を棄るりの生るとこの地獄あり。その罪もは滅する小足らざる。或ハ市よ棄られ。木よ梟られ。えくもれた跡を吊りのあり。生るとよ地獄あり。生ると後にも地獄あり。既に生るとは小地獄あり。死後するはホの心。きつるが母の心もさく。親族妻よ悉く。彼姐よ載ぶるとあり。つる脱るととせんとて空の小とす。悲く救ふ微るととせざるれば法師きち。身思く。罪小軽重あり。罰よ厚薄あり。か叶首懺悔く。弘経寺の烏有小因の幸く。免るととせんとて誓解るととれと示し。あめその言をきき終らば。野寺の晚鐘松の風小音ととく。地獄の鐵城も忽地小うせ。法師もええとありあひく。与を思ひ。只ひとり。法藏寺の墓原あり。草の中もど卧する。あまりの不思議小備とて之を昔御人ホが社を結て珠羅が菩提のたふ建せ。名の地藏尊とてなり。この面影。嚮の法師よ肖するれば。さるの佛の現化し。あめこのこととて小。感涙ととらる。あまのつるが家よ多めりて世の姑小わりのとと物り。よ。情三昂夫婦の。且悲く。思するもまの懺悔のたよ縁由。双山隣小ひま。餓臣の弘経寺小まのりく。烏有和尚を招待し。濟度とてこの。ゆえにまのべとく。只顧冤魂得脱の當分とて入企ること。

第十

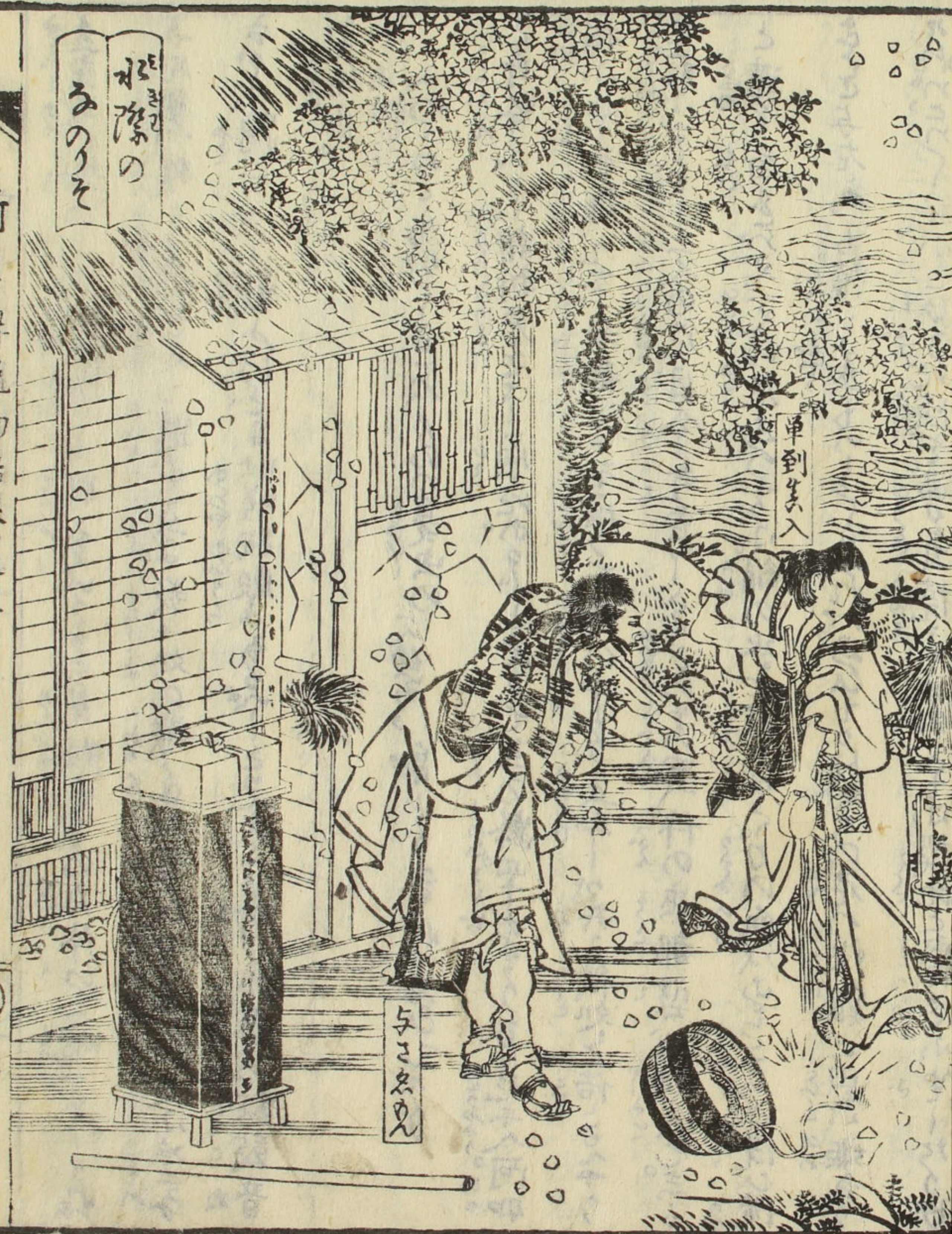
刀を洗く女僧行者以折く
 法心固く冤魂解脫を得る
 烏有和尚ハ方宏く道高く。當時無双の聖僧小おつせと。光を裏こ名

利小走す。其藏國淺草なる浄淵寺小寓居り。ころびく程む
 く又弘経寺小ゆゑいひて其処も住まひ。故郷あればと近江路
 小越片田のほとり小出た菴を滞ひ行ひをりてせり。まゝふらの
 十年のまう前秋。温忠上人。近代のりいぶ。その徒弟。後合して。烏有と招
 待し。後住さう。まけんい。成や。あうりれど。承引あひさう。いづさ。小東のり
 たるり。くや。ありん。去年の神月。ま入。ま。と。く。二人の徒弟。を。下。後
 小起。見。弘経寺小。橋居。り。と。小。あ。玉の春。ま。あ。小。今。既。小。孫
 生。小。ぬ。る。右。出。つ。男。清。三。昂。と。近。隣。の。郷。人。二。三。人。を。伴。く。弘
 経寺小。清。ま。づ。町。寧。小。本。尊。の。仏。を。伴。し。ま。り。さ。く。人。子。就。く。や。せ。う。
 らの。小。寺。小。烏。有。和。尚。と。や。ひ。聖。僧。あ。つ。せ。る。べ。い。これ。の。羽。生。村。の。農。夫。小。織
 越。与。左。衛。門。と。れ。つ。男。あ。る。法。恩。寺。の。村。長。清。三。昂。と。あ。ら。う。り。の。と。ま。あり。願
 し。た。あ。り。く。あ。り。ゆ。よ。の。り。よ。た。小。や。さ。さ。あ。と。ゆ。え。入。る。ま。つ。烏。有。が。て
 對。面。あ。り。く。竹。小。名。を。問。了。と。ま。あ。ら。う。れ。汝。亦。一。家。を。濟。度。ま。べ。た
 因。縁。あ。り。と。ま。り。く。去。年。の。冬。ま。づ。近。江。う。り。ま。あ。り。ま。あ。れ。と。ま。あ。は。二
 三。日。を。や。し。ま。ぬ。る。十。日。の。午。後。ま。づ。れ。細。川。の。ほと。り。小。追。し。汝。亦。本。日。稚。兒
 の。と。ま。り。く。ま。の。の。岸。小。侯。彼。処。ま。道。と。ろ。締。り。け。る。草。庵。あ。り。汝。亦。ま。づ
 其。処。小。到。ら。づ。菴。の。後。ま。る。小。松。の。中。小。く。ろ。ひ。て。い。ふ。悲。し。く。又。か。ま。る。と
 る。と。も。う。あ。ら。う。お。ま。さ。度。と。れ。機。小。臨。て。あ。ひ。つ。と。あ。い。と。示。し。あ。ら。う
 子。右。出。の。清。三。昂。亦。ま。い。ま。づ。一。言。も。緣。由。を。ま。え。あ。げ。ま。る。よ。和。尚。と。く。ま。の
 る。と。猜。し。く。説。示。し。あ。ら。う。豫。く。よ。り。賞。期。し。く。行。あ。ら。う。と。あ。ら。う。い
 と。不。思。議。も。ま。ら。う。け。ま。づ。一。後。も。及。び。こ。ろ。る。果。く。ぬ。り。る。と。本。日
 ろ。ま。ら。う。り。ま。と。右。出。の。清。三。昂。と。も。小。病。つ。ま。ら。う。女。恩。さ。く。成。抗。抱。ま。る。く。

新田宗解脱物語卷之三

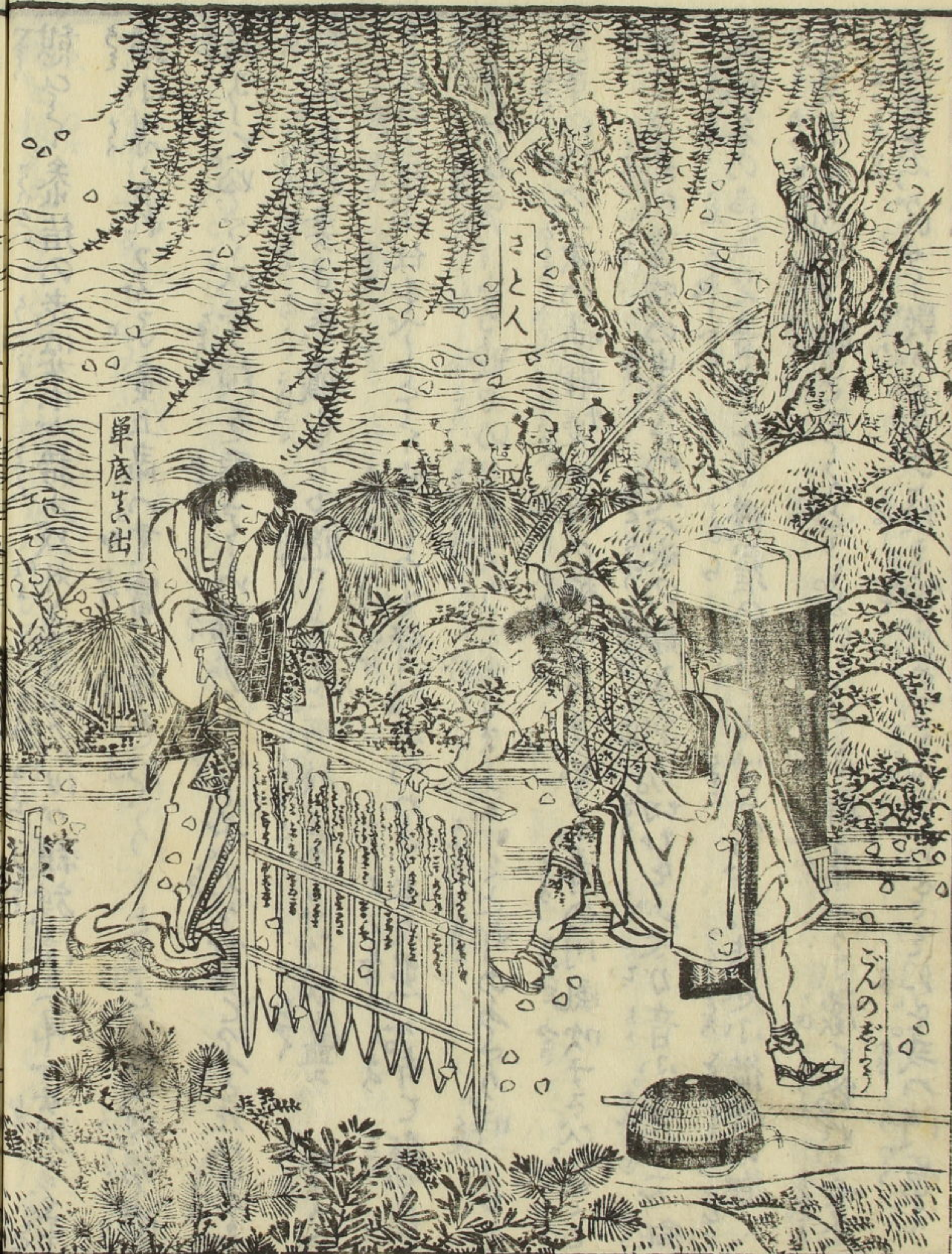
須川の岸辺に到り。鳥有和尚の教小まつりて小松が中より身を屈れ。今う
 今うとまの程に。彼此の老幼男女。この成付つて。羊の信。羊の疑ひ。さ
 らに彼処に赴いて。彼和尚の法験をまうんと。罵あつり。され。山
 寺か洲のほとり。小ま。ま。年の冬より。假初。掃びりけ。草の戸あり。木の
 柱細。小。若。漏る。月。友と。つ。の。い。う。あ。く。も。志。し。れ。づ。つ。熱。居。て
 人小見え。昨日と。あ。く。夜と。あ。く。讀。經。の。声。の。こ。ぞ。燈。つ。ら。う。い。と。殊。勝。げ。う
 中えり。け。一。も。あ。れ。三。月。十。日。の。高。午。六。十。六。部。の。妙。典。を。納。て。ま。つ。る。回
 圓の修行者。及。高。千。小。脊。子。鉦。ら。ら。ら。ら。打。鳴。ら。し。河。原。小。と。ま。ま
 る。向。ひ。よう。これ。も。ま。ま。打。捨。る。彼。行。者。菴。の。ほ。と。り。小。と。礫。と。ひ。ひ。互。う
 不。審。や。あり。ん。是。首。より。笠。の。裏。を。さ。覗。ん。と。す。れ。ば。彼。方。の。人。と。ま。ま。と。こ
 背。向。し。辭。又。彼。方。より。え。ん。と。す。れ。ば。是。首。も。え。ん。と。ま。ま。を。傾。け。と。ま。ま。か。う。と。ま
 ま。ら。れ。り。あ。ひ。て。二。歩。三。歩。行。ち。び。つ。つ。ろ。ろ。と。も。小。錫。杖。を。丁。と。突。て。併。り。と
 並。西。へ。玄。冬。小。あ。つ。む。や。その。あ。の。あ。の。と。左。出。つ。る。も。や。と。ひ。び。ひ。ひ。を。信。と
 え。う。う。ひ。う。く。及。及。扛。あ。ろ。う。て。間。近。く。す。ま。對。ひ。と。左。出。つ。と。赤。と。る。氣
 と。よ。く。や。ま。れ。玄。冬。昔。昔。が。妻。玉。芝。を。奈。集。ひ。去。る。と。の。日。より。怒。を。復
 ん。と。と。く。と。の。患。苦。を。控。ると。い。と。も。時。至。る。と。れ。ば。環。會。む。世。の。中。心。地。小
 形。あ。く。お。ぼ。え。く。も。奴。棄。家。を。出。牙。の。優。婆。塞。し。打。捨。と。も。遺。恨。の。う。と。と
 思。ひ。後。ん。時。あ。る。う。ろ。十。年。あ。ま。り。遠。離。り。る。故。郷。と。も。ひ。あ。ひ。り。る。優。量。華
 の。ま。ま。ぐ。く。勝。負。を。決。り。よ。臆。し。ら。う。と。り。た。ま。け。が。権。と。丞。阿。と。吟。咲。ひ。
 此。物。も。や。わ。れ。は。は。こ。も。妻。の。仇。れ。む。これ。千。葉。惟。道。は。取。用。日。れ。息。女。田。系。姫
 奴。妻。の。い。さ。れ。小。は。好。計。く。田。系。を。誘。引。墨。田。川。小。押。投。め。く。その。金。奴。棄。ひ。去
 せ。ら。る。程。程。く。これ。を。あ。る。と。い。と。も。既。に。羽。生。村。を。逐。電。し。て。往。方。ま。れ。ず

水際の
みのろそ



単到生入

5



3
と人

単底生出

3
と人

小咳こせしと鳥とり有あ和尚おしょう千葉ちよば正胤せいいんを伴ともひて中ちゆう葉はの家いえ隸れい十じゆ人のひとあままりり主君しゆきん
 の後のち方かた小居こゑああららばば柱はしらをを承うけたまへへ糸いと漢かん頭かぶをを低ひくくるるがが区まは時とき小鳥ことり有あ和尚おしょう小
 松まつ生な茂しげををるる方かた小こ對たいくく招まねかかへへ前まへよりより彼かれ知しかかくくるる小居こゑををるる與よ右みぎ也なり情なさけ三
 島みやま夫婦ふうふいいざざ泣なかか抱かかかかくく走はりりままるるそそがが中ちゆう小こ与よ右みぎ也なりのの眼がん中ちゆう小こ涙なみだをを含くはみみてて縦たて
 怒いかびびががららるるあありりとともも慢まんははおおももととささふふみみががららるる面おもののあありり父ちちがが傷きずららるるととままのの外ほか々々
 ああくくててゆゆひひいいどどいいひひけけてて正胤せいいんのの中ちゆうもも小こ憚はたりり父ちちののほほららりりももままららりりゆゆめめ思おもひひがが
 後のち小居こゑららりりぬぬ郷人きやうじんホホハハのの光景あかりををつつててままじじららるるとと散ち動どうめめれれつつててままららるるちちららくくど
 團だんややすすれれへへ鳥とり有あ和尚おしょうええららりりてて衆人しゆじんをを言ことををけけけけ極重ごくじゆう悪人あくじんをを化くわ方便べんぽう唯
 稱しやう名字めいし必かなら生な我界わがかいの本願ほんがんのの一切いっけつ衆生しゆじんののあありりてて仏ぶつのの凡夫ぼんぷ小こ叛はんぬぬららんん夫おとこ却かへ仏
 小こ叛はんたりりむむららりり与よ光景あかりのの玉たま芝しばががままよよ惑まどひひ負おいいれれ珠しゆ雞けいをを逐おひひららいいららぶぶ亦また
 玉たま芝しばをを權ごんくく丞じやう小こ棄あひひ去さられれるるままはは愛あい惜しやくししとと彼かれ小こ謀ぼうらられれ不ふ意い罪ざいをを造つくりり
 餘殃よ累らいのの身み小こ係けいををりり又また權ごんくく丞じやう人のの妻つまをを棄あひひてて妻つまをを寛あやららるる惡報あくぱう小
 よよううくくくくくく玉たま芝しばをを殺ころすす人ひと迹あとをを小これれよりより走はりりそのその餘殃よととななららぶぶが
 身み小こ係けいををりりてて逐おひひ小こ亭てい積せき小こ謀ぼうらられれるるそそののまま小こ愛あいくくをを後のち妻つまににせ
 よりよりそのその現報げんぱう女め兒ごささくく小こ及およぼぼせせりりああららるる小こ珠しゆ雞けいとと累らいのの負おいいままううてて朝
 るる寛あやとと稟らい珠しゆ雞けいのの存ぞん命めい累らいののたたととままららるる累らいがが怒いかまますすゆゆくくつつててままは
 知しれれららるる鷲しゆのの深山しんざんの高たか穴あなをを仰あがめめ龍りゆう華け樹じゆのの下した流ながをを汲ひくく慈眼じがん慈あや衆しゆ
 生なのの大だい誓せき願がんをを起おこすするる德とくありりとといいふふままににままららりり諸天しよてん諸しよ佛ぶつのの擁
 護ごををままららるる天眼てんがん天耳てんじのの自在じざいをを得え過あまま末すえ末すえをを知し覺かくせせりりままららるるああれれ今
 日けふままららるる法ほう験げんをを顯あららわわるるははかかくく名な利りをを厭いとははるるそのその故ゆゑ小こいいねねるる日ひ清せい三さん島しまとと右
 邊へんららままららるる緣ゆゑ故ゆゑををままららりり亦また今けふ朝あさ正胤せいいん小こ訪たづねねるる小こ及およてて向むかひひてて印いん幡ばんが
 るる縁ゆゑ積せきしし今けふもも小こ伴ともひひ進すすむむららるる磨あららままららるるままららるる鏡かみとと邪よこ正せいをを照あららわわすす

まどろい。せうらの川の畔小く。珠雞が必死と救ひこれを教化して尼と化。
僧小く故郷ある。江別片田小世成るが。其次の夏浄淵寺よりのうらこ。
鬼川川よ投入せり。田糸姫奴助揚。又因果の道理を説きて弟子と
す。あく人小くみこ。近江路小旅く。珠雞が片田の草菴小同居に
これ又彼処小赴れてをり。法を説く。執着の邪念奴脱離し。い
とろのそえし。まうれも女人の性小うけり。罪障小たりのあれ。法を説
く。あか小似れども。又時く過ぐる。い出煩惱の大その牙小寅
縁。遂は仇小およぼさる。故小権を丞とたつ。小漫小惑ひ生く。いその
患者を票ふる。小ゆきま。これい生天の宗小といふも。その原は因と果小
ゆ。い善人の終焉ハ一念終る。礙するとう。壁言ハ火の滅てはるが如く。
悪人の臨終ハ邪念頓滅する。とめり。壁言ハ穢れた物を焼く。臭香且く
室の中。残るごと。とさる。宗とあり。その宗小あり。まどろい
これ。觸をむ。故のふとあれ。いの本然の善人欲の私よ覆を種。の悪
業とあり。そのむ。法あると。い。や。か。悪とあり。知るといふ。悔と改
る。小至る。され。天り。ま。物小假托。これ。を。訓。を。世。小。冤。魂。の。理。の
我。より。彼。を。懸。小。成。る。蓋。風。小。声。す。樹。心。過。ると。い。ま。や。の。り。風。
る。は。東。西。南。北。と。金。石。の。動。と。あり。物。小。觸。ると。い。声。あり。これ。我
より。彼。を。懸。小。あり。む。や。不。謂。生。天。の。風。の。樹。心。過。死。天。の。金。石。の。物。を
觸。る。か。エ。う。因。生。天。の。懸。る。の。形。體。心。神。具。足。と。の。世。あり。憎。惡。の
一念。死。天。小。勝。ると。い。う。論。し。が。い。ま。の。年。未。これ。珠。雞。と。田。糸
姫。を。教。化。する。と。言。い。ま。今日。小。至。る。ま。や。の。功。を。終。る。又。累。累。の
冤。魂。を。済。ま。せん。とい。ま。今日。小。終。る。の。難。易。を。い。ま。い。亦

田糸の両字と合さるれば累とある。是過世の悪報因果の脱が既小との
 名小頭れり。経小のつとや一念發起菩提心勝於造立百千塔今也田糸
 姫煩悩と断離しく正覺は歸を累が成佛疑りと示しぬ。この論
 微妙うて衆人の心耳を澄しどとぞくぞくぞりり。そのと久清三郎。あましく
 すもきく。疑ひさうつらあねど。珠雞が家をまるといせ。とろ須川小鬼の哭
 声はえ動さぶその処々。弱死するのあり小御人ホ社を締く。石佛を建立
 跡町啼小吊うづそのあやと止さの累が稚たたら。の川さく。厭鬼れ或の
 珠雞田糸姫の冤魂累とむ小末して。草績を殺し。さか悩まん。この二入
 へ今る世小存命るが。あましく怪あり。いと不審なるありとヤせ。
 烏有世元とて。鬼心あるる清三郎。伊ホ珠雞へ須川小投わりと。あましく
 鬼魅罔面とれ小假托と。さきく郷人ホ彼が。あましく追善して。その美を
 流るる。そのあましく怪とあり。常言小。疑心暗鬼を生むといふ是
 り。田糸姫のもち推して悟るべと。さきく清三郎のちさく。群集の郷人
 靡くさ。嗚呼と感して止さうなり。珠雞も田糸姫も。このは義とゆく。小
 と鈍く。寔小女子の罪障あり。夥の人と苦しむ。さきくあましく悔歎
 へ烏有赤肉と。さきくあましく。それと仰さる。小二人の尻と。さきく
 九品佛に擬へる。卒都は女と河原小押さる。衆人一齊
 されと。さきく第一番の貞婦累。七月八月十日 法名香
 言妙材。第二番の山梨印幡。第三番の野と三
 第四番の山梨治部。第五番の玉芝。第六番の
 草績。第七番の織越。と尤也。第八番の西入
 権く。第九番の伊予。亡日法名。悉くこ

合仰





其載出天得脱拔苦与樂の乃小鳥有和尚の令を辱して茅子千葉
 氏の女兒單底真出尼田糸姫徹越氏の奴妻單到真入尼は名建五所と云
 あり。實九本の平部は女の功德より。天魂九品の浄土小生らんと
 疑ふ。追薦あり。くて鳥有和尚清三郎夫妻小仰。さく
 近くはびより。彼人面磨小うら對。加持。ゆきの偈小。

假作真時真亦假

無為有處有還無


山田やろ素山子小野乃のありと母の鹿もうら
 南無阿弥陀佛。有き阿弥陀仏と称名の声のり水晶の念珠をり拂ぬ
 さく人面磨。ま比小跡。愈宿川の氷逆巻。一道の白瓦隠。とまのほ。西
 小麻非と銷夫。く。の奇特。つる。良賤。その冤魂得脱。ら。散動。つ。ろ
 と小念仏。て。ま。が。行の鳴。も止む。と。た。権。と。の。と。ま。も。只頭。と。低

くと。死。る。が。と。り。て。の。り。る。が。忽。比。小。天。を。ら。仰。く。救。回。嘆。息。一。が。惡。業。の。い。と
 くれも。契。あ。れ。い。ん。小。臨。く。微。妙。は。法。小。あ。り。る。も。その。映。を。釀。こ。縁。故。ハ。
 母。と。ま。れ。小。あ。り。仇。も。怨。も。ま。ま。を。い。刺。ち。づ。ん。げ。小。理。と。互。小。カ。び。ら。る。ま。ほ。と。と。
 正。亂。え。の。れ。苗。よ。と。仰。ま。れ。が。家。縁。ホ。走。り。よ。う。て。不。て。左。右。小。列。り。け。り。正。亂。ハ
 び。彼。二。人。は。對。ひ。て。れ。ま。る。く。六。年。已。前。山。梨。印。幡。が。亡。魂。の。折。小。よ。く。權
 承。が。隱。隱。を。あ。る。と。い。ふ。追。捕。ま。り。り。の。父。の。恨。を。せ。小。あ。ら。れ。ん。と。厭。ハ
 ぞ。これ。も。天。網。遂。小。漏。く。さ。す。の。子。金。五。郎。マ。實。の。罪。を。ゆ。村。落。小。漂。白
 ぞ。且。今。つ。ふ。と。小。未。れ。の。名。の。印。幡。が。悲。と。清。と。の。ゆ。り。時。日。を。違。ハ。も。と
 つ。う。弘。經。寺。小。未。訪。し。鳥。有。和。尚。小。謁。て。田。糸。姫。積。が。と。雷。小。あ。り。ぬ。れ
 ば。が。妙。恙。あ。く。伊。亦。既。小。先。非。を。悔。と。な。か。く。責。る。小。足。と。い。ふ。家。の。法
 度。ハ。勿。心。小。ほ。く。これ。ハ。昔。權。と。丞。が。田。糸。姫。を。統。れ。と。と。左。邊。小。殺。ま。と。と

謀しつた彼小彼もる衣服と太刀あり。その夜与左衛門が墨田川原小投捨て走り
 入。鳥有和尚潛小藏ゆ。今ある所所持もとせしむる。れを得く携来せり。亦
 与左衛門のつが好と水中小投入せり。その金を棄ひ去りし。かれ共小免る。犯人之
 心。つがごの二カも成仏とせしむ。覚期もよといひもあむ。抜挿の刀の小権と乗
 る。与左衛門大に飲ひとくも助る。命代死せり。君の命代死んぬ。この世の
 心出する。天邪といふ声も。多く戦く苦痛の巻小握を固く。りんた小刀。大に刺
 る。肚一文字小撥切も。正胤とてまきり。あり揚る刀をも。小二人が首ハ落る
 たり。群集の老弱とれを。異口同音小念仏も。与右衛門の悲歎小堪む。件
 の刀ととらうと。鬚を。と押切も。清三郎夫婦も。後れと共。改鬚を切捨て
 る。く鳥有和尚も。やんやう。死する人の聖僧の引接小す。既小清果を
 得。れど。生残。と。吾侪が罪障。の。つ。く。威。の。れ。の。子。と。あ。
 めひて。後世。救。の。と。希。ハ。鳥有和尚。と。更。仔細。血
 脈。授。と。と。應。あ。よ。彼。三人。又。中。す。鬼。病。と。既。小。死。と。う。
 る。身。の。ふ。後。小。命。助。れ。を。聖。僧。小。進。と。く。人。と。う。後。尼。と。あ。
 る。く。佛。息。小。答。と。と。中。す。と。鳥有頭。を。う。ち。掉。と。の。甚。謂。と。
 が。父。与。右。衛。門。ハ。織。越。氏。を。冒。と。と。その。家。と。断。絶。と。と。と。義。の。二。
 小。缺。ん。と。れ。い。ま。と。不。義。不。孝。の。行。者。小。菩。薩。の。冥。助。と。を。を。彼。と。
 と。い。と。も。成。長。の。後。塔。目。と。招。と。と。の。家。相。續。と。と。の。功。徳。出。家。と。と。と。
 勝。と。と。と。説。諭。と。と。と。正。胤。を。誘。引。て。弘。経。寺。小。あり。と。と。と。小。与。と。と。
 ハ。實。父。権。と。と。と。丞。養。父。与。左。衛。門。が。亡。骸。を。法。藏。寺。小。葬。と。と。と。出。田。と。と。と。入。け。兩。
 危。を。敬。ひ。待。と。と。と。君。の。と。と。親。の。如。と。と。と。次。の。日。と。と。と。打。と。と。と。弘。経。寺。
 奉。と。と。と。鳥有和尚。對。面。あり。と。と。と。与。右。衛。門。と。と。と。法。名。函。入。と。と。と。清。三。郎。と。

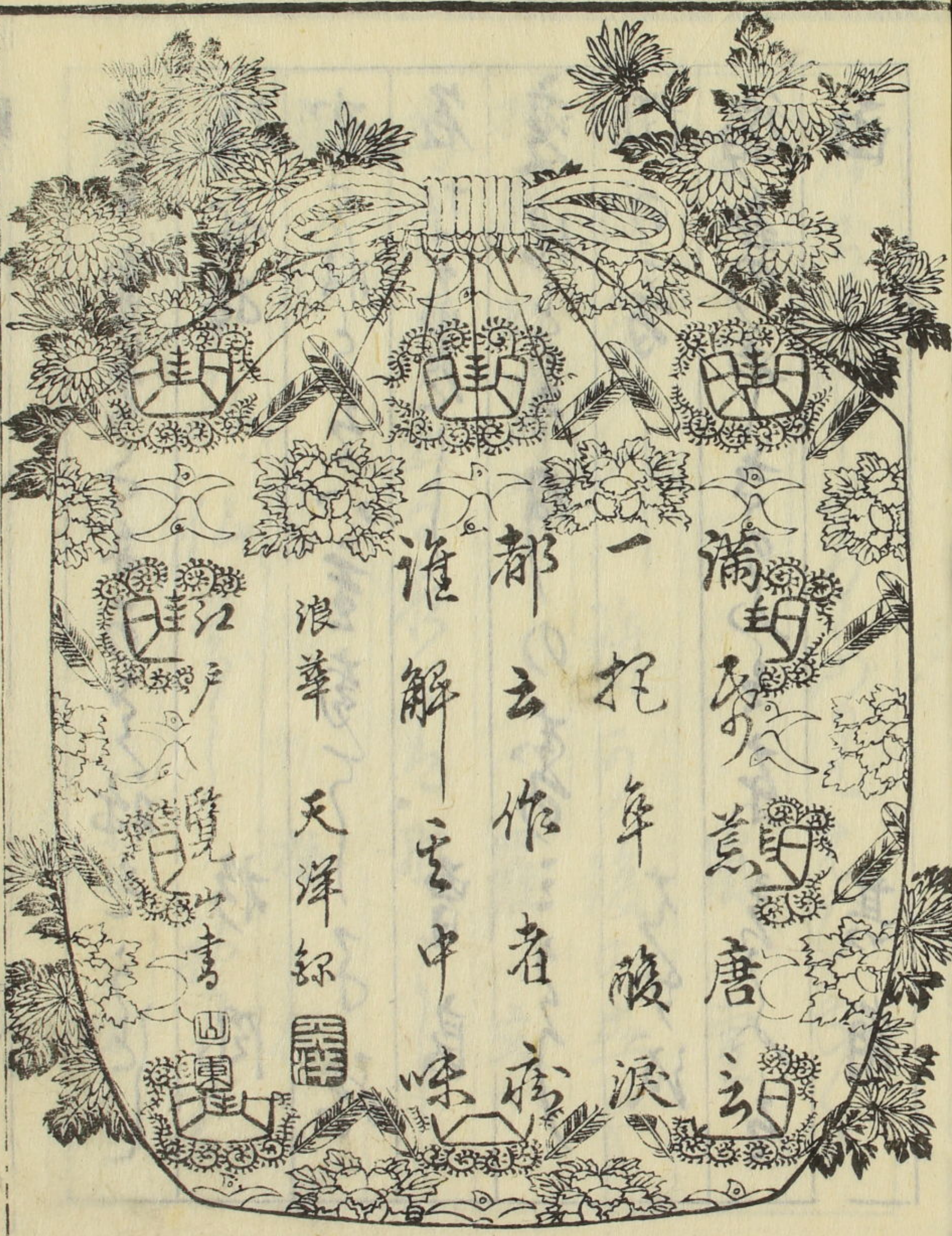
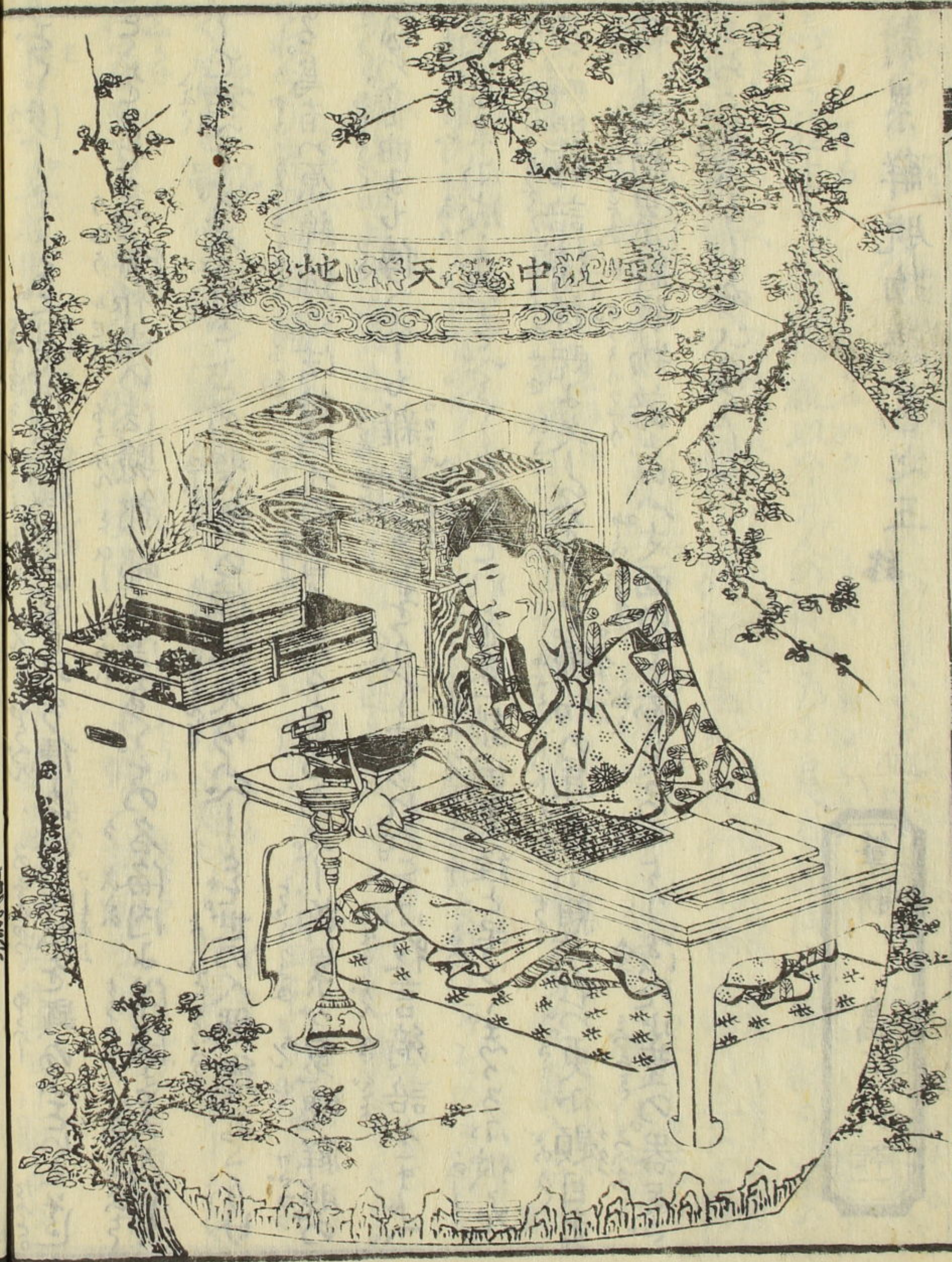
理屋との妻と負ねとぬむあむと。まゝいち血脈を授めふ。この日より正胤の
 まゝに旋まると父惟胤以下九人の徒が乃小鳥有和尚を導師とす。一山の
 僧衆を集會す。三日三夜の大施餓鬼を修行し。遂小姓の尼と伴
 石濱へ帰城せらる。されど真土尼細館の中。小あつんと厭ひ浅芽が
 原に草菴を締びて只佛小つらるを。その勤とてすゞれば真入尼難
 も。年末の契しとあつてく覺え。まじりく彼処小泰りか。その後野の
 年を控へ。四月十九日といふ。時日も違む。兩尼大往生を遂るとも。
 これより先西入法師与右史は。各い。さくが十六歳あり。る春。これ小堀目を招
 く家を嗣し。又清三郎法師も親族の子を頼ひ。村長を禳へり。と。
 兩家めでとく栄たり。かくて後清三郎夫婦の諸國を修行し。晩年
 小身まろり。与右史の法師も長壽すと。七十餘歳の六月に二日小眠るが
 ごとく没し。りとも。是併地藏井の善巧方便と。彼活仏を顕めよといと道
 とをりて鳥有和尚の法驗都鄙小隠る。その名徧内は洋溢と。夫天の貴
 して祐へ。まろれどもこの聖僧の徳。祐天のふべと。世の人稱讚まろりけ
 る。鳥有の原綽跡は法諱の人の普くあると。抑累が冤魂鮮脱の
 るの音曲も傳へ。今も雜劇もをり。すまれば。その小言綺語をまろ
 余が筆小成りのま。まろく丸巻。これを巷談因果経と号く。まろる小彼死
 冥鮮脱物語續梓既よ久しをり。婦初の耳目小親り。更小題目を
 轉して新撰鮮脱物語といふ。文面のとあせ。えより浅死水菴の器足と
 此ごとに見え。りぬひれ。

新撰鮮脱物語卷之五 終

筆耕
 島五六六


新撰鮮脱物語卷之五

六



そらう南をくつみこのをく祿をうじし

猶合持

杉風

かこぬとをこハ重南とく子孫

名たふふた

曾良

変化とをく河のをあこくう

風の音

たをてん

稲妻のやきののをを東まふふを

西

其角

名らうやまきつあをまをむやく

水の上

嵐雪

舟蟻をく川一誰う後の虫や

捨卒初鳴

羅文

幽霊乃出るおとを形

腕舟

梅柯

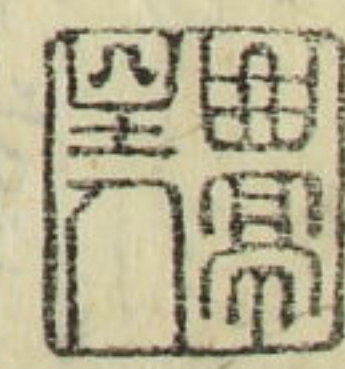
我あか能仙言

月

任口

江戸

曲亭馬琴著



葛飾北齋畫



京師 井上治兵衛

大阪 市田治郎兵衛

刷人

○曲亭先生著述目錄 浪華 文金堂繡梓

新累解脫物語

復讐 月氷奇縁 小説

この書ハ死灵物語を増補し累ガ傳をくわくある事とも因果の道理を尽し稚蒙を警むるの作也物語之 全五冊當春出版 享徳年中近江の孝子熊谷倭文といふ父の仇を報して絶たる家以與一乃事以

俳諧歳時記

四季の詞を注釈を審み只といふのみみあつたこと以讀と記を和漢年中の行事以あらべ一全二冊右み全シ

俳諧人物志

この書ハ貞徳芭蕉以下當時名高き俳諧師の畧傳を輯録し且その作書に至るまで審み記入全二冊近刻

雞肋 瓶 瓶 瓶 瓶 瓶

全本五冊 繪今本 来春出版

文化四年丁卯春王月發兌

江戸通油町

鶴 屋喜右衛門

京 御幸町妙小路下町 菱 屋孫兵衛

同 寺町二條下町 鈿 屋安兵衛

大坂心齋橋筋唐物町 河内 屋太 助

行見解免勿否云云

清原重巨先生撰 清原重光先生校

草木性譜

附草木有毒圖說

奉書摺大本全五冊

定價金三圓

該書の山林田野に生ずる草木、花實、葉根と微細に寫眞して每書着色其眞を顯し目前實物と觀るに均しく加之記するは滋益、有毒、氣味、性分を擧げ和漢其名稱出所と詳述したきは百物推理の方今與産家と始先植物試驗藥劑鑒別及び製藥家と於て此書其參考と闕くべからざる要書也

丹陰莊門 熙先生編輯

新編詩學精選

小本全五冊

定價金七拾五錢

此書之四季及ヒ雜部は五卷に分ら上と日、月、星、震、風、雨、霜、雪よと下と江海、山川、森羅萬象、宇宙細大と亦く凡る吟味に屬する作題と勿論晚今祭典、演劇、電車、電信等其尤も新調に適する珍奇雅正の作題と附して洩そよと亦し其體裁たる紙面を兩段ハ別別之、上段に熟字を掲げ下段ハ韻礎を置き每題和漢名家の絶昌と稱する作例を挿み且つ平仄譯假名と叮嚀に註明す是を以て刊行以來詩作楷梯の良書と呼われ江湖に流布するは既に萬有餘部の巨額に及べり重刻とる再三編者の榮譽書肆の僥倖深く感謝する所あり伏て冀くハ江湖の本書新識の吟客其誣言からざるを推し最寄書房よ就て御購閱あらんと企望す

丹陰莊門 熙先生編輯

新編續詩學精選

小本全六冊

定價金壹圓五拾錢

此書正編の四季を主意とし編次す故ハ他の景物に至りては漏泄の失あらんよと恐る是ハ因て天文、

地理、人事、器械、飲食、草木、百花、菓品、禾蔬、飛禽、走獸、鱗介昆蟲の十三門に區別之其體裁と専ら正編の義例に倣ひ只管ハ作例と増し下段に後輩先進の五七言句及び聯句を掲げ置たれ吟場墨圍は勿論畫席雅筵に提携すること便利に之て其功最も多し實ハ正續兩編連理して無瑕完璧なる良書と云ふべし凡そ詩作に志ある諸彦の清玩とせば其攀援の助を爲すよと少小あらず伏く請ふ世に慢然散布する詩作の諸書と同一視するは卷と綴て其金玉ある全本と知り玉ふべし

竹漉莊門 熙先生編輯

詩韻含英增補以呂波韻大成

折本銅鐫全一冊

定價金拾五錢

此書ハ從來世に流布する以呂波韻より一層字數を増し冊首に時令及び花木、禽獸、鱗介の異名を載せ次に詩韻含英異同辨より平仄韻字若干と摘要し只管に詩作初學士の便益に供す世上に類書數多刊行し就中異編同名有之此書需めらる、諸彦と莊門熙編輯の以呂波韻と稱へ最寄書肆にて御求を乞ふ

阿陽堤 大介編輯

一辭詩文幼學便覽

横本銅鐫全二冊

定價金卅五錢

此書ハ四季の景物花鳥風月等の部類に分ち熟字若干と掲げ平仄譯假名と丁寧に註明と實に詩文并用の便益に供すること聊か表題ハ不違珍書あり

明屠赤水著 東溪源謙校

考槃餘事

白紙摺明朝綴帙入小本全四冊

定價金七拾五錢

此書の支那歴世の書畫古法帖等の評論及び金石鼎玉文房の諸品盆栽瓶花香爐茶酒琴服等一切の事物載
と洩すことなし且其品物の真偽精粗と辨論し或は製造試擇と修繕との諸法と参記を實に文房賞鑒家
必用の書あり

順堂奚疑先生著
書畫皆宜

白紙摺明朝綴小本帙入全三冊

定價金四拾五錢

書家必用の小冊諸君子常に机上に備置き玉ふて其の辨用舉て謂ふ可からず書題畫題と始と一絶句聯句
の云ふも更かり堂亭又と館園の別號數字類に至て諸家の妙語を選て漏さず記したれば該書と披死く
其自在を得ずと云ふことなし苟も書と玩ふの諸彦必携有益の書あり

吳縣顧祿鐵卿撰
清嘉錄

日本名居安原寛得衆校

半紙本全五冊

定價金七拾五錢

唐土の年中行事其國の風俗人情と詳載し民間の景物と精す學問の助とあり詩文を作るに甚だ益あり
宋林洪著 元羅先登著 吳縣顧元慶著
正續文房圖贊

○附十友圖贊

白紙摺明朝綴大本帙入全二冊

定價金五拾五錢

此書の支那歴世文房諸品筆墨硯紙等より茶器香具の文房は屬せべき器具百般其圖式を摸出す雅文哲
辭を載せたる珍書にきて文士雅客と更なり賞鑒家にも必用の書あり

近藤守重編輯
金銀圖錄

半紙本全七冊

定價金壹圓五拾五錢

此書の往古より近世まで我國通用の金銀貨幣其正品と摸し品類を區別し着色きて凸凹とも其ま、顯し
たれに實に其真物と視るに同く且位格時代年月相庭等と詳記きたる銀行を始め經濟家有志の必閱た
る書あり

南陔富永叢撰
茶器名形篇

半紙本全二冊

定價貳拾八錢

此書は聚樂室の家祖吉左衛門累世の系譜其造る所の茶碗及水指香爐花器等の圖と擧げ其傳記并は價位
を附し購藏主の姓名と記して遺憾かからしむ苟も紹易の下流を汲む人は必ず其座右に闕可らざる書也
秋山仙朴先生撰
當流基經大全

大本全三冊

定價四拾錢

此書は本因坊策元の直傳と記すもれあしと諸家の開書圖碁石置れ心得より都て秘傳妙術と惜まき記録
したれと碁碁と嗜む人は勿論假令初心の人と雖も此書に據るときは置石定位の法を知り變化勝敗の
理とさとす易く所謂定石しらすの域を速脱するの善本あり

丹陰竹涯莊門照先生編
墨客草園

白紙摺明朝綴帙入寸珍本全五冊

定價金壹圓

抑も墨場は携帶して臨摹も充る書多と雖も草字と集めて雅筵に求索に適するもの少し夫れ書は古人
は筆法を據らざれば一點一畫筆を下すも婉雅かたき況んや草字に於てとや編者此を見るあり是を以て
歴世十朝漢晉宋梁陳唐宋元明清草聖の古法帖中最も純粹なる者に就き片冠の引法より
編纂して六卷にわかし墨場必携の用は供す乃ち古人を一堂に聚め手執り心み談及るの快とみさしむる
書にして例之を學とさるも幸に愛玩し玉は、家雞野鷲の俗體て脱し老顛狂僧の風神に入るも抑ま
た遠しとせず是に於てや謹て江湖の草韻家に告ぐ

移石原田先生摹古及加筆
國畫芥子園畫譜

半紙本全二冊

定價金五拾五錢

方今文苑畫圖の書冊皆か机上の簡便と競ひ江湖に刊行するもの多しと雖獨り國畫の書に至ては未だ
完全無闕あるもの蓋し多うらざるあり今斯畫圖の如きと古今我邦畫工の巨擘三十餘名家の揮毫あるも
のを蒐輯しん物草木走獸飛禽百花魚介の六譜に分ち只管に唐刻芥子園畫譜の跡を效ふ之に憑りて學

べは初學の士筆と下して其礙滯なきに至らん假令之を學ぶる君子も幸に愛玩たまこむ鬱憂心を轉じ爽快の情に移らしひる珍書あり

越谷吾山先生輯 半紙本全五冊 定價金七拾五錢

諸國物類稱呼 右越谷吾山先生我日本國中經歷の際其土地の風俗人情より一郡一邑の訛詞逸委しく記載去く天文地理人事服食草木花果菜蔬飛禽器賦獸魚鱗介昆蟲及言語の諸門を分編して問々名家の諸國訛詞入りの唱歌狂歌連俳狂句等を挿みし古人未曾有の珍書あり

大瀧永常先生著述 半紙本全三冊 定價金五拾五錢

農具便利論 此書の耕業に益ある諸器械と集録し其便利と評論して近來流行のポンプの製作までも載せ記したれの農業の諸君に欠くべからざる寶書あり

天狗房花鷹大人編輯 寸珍美本全一冊 定價金拾五錢

佳花 餘薫 珍珍文粹 戲作者の巨擘馬琴京傳春水三馬等の諸先生と始め三十餘名家の最も面白き文章を輯めし小冊子と傲したれの狂文を綴るの御手本とあるべき小意氣を書也

狂歌堂四方真顔大人撰 狂歌房酒月米八大人撰 小本全四冊 定價金六拾五錢

戀雜 狂歌題林抄 江湖諸大家の狂歌を東都小名高き狂歌房主人が撰り其上へ題毎に枕詞及び珍詞と大寄に掲載せられ

玄頗る滑稽がまたる古今未曾有の珍書中の珍書あれ世の風流粹客達是非一部に御進め申せても御求めあらんことを乞ふ

契沖阿蘭梨家集 中本全四冊 定價金七拾五錢

漫吟集類題 契沖阿蘭梨の歌謡の大家たるよ其道に遊ぶ人のよく知るところなり此書と契沖阿蘭梨の家集をして

四季戀雜并に富士百首長歌等各々類選にし一代のよみ歌を洩させ五千餘首をあつめし大秘書也 富草屋大人校正 寸珍本全一冊 定價金拾壹錢

袖中大和詞大成 無益の詞を去り當時用ゆることはを多く増補して附録は歌の讀方を出し歌學初心の便利の小冊子とす 建綾足大人著 早川廣海大人補 小本全三冊 定價四拾五錢

增補歌文要語 古事記日本記延喜式和名抄萬葉集伊勢うつば源氏ちちくば竹取その傳々和書物語等の詞を部類に分ちて註解と加へ附所をりけし信切な書されは和歌連併と云ふも更あり和文綴ると便とある珍書あり

芭蕉七書 此書の行脚記二十五ヶ條十六篇句合〇嵯峨日記〇奥の細道〇發句集等此の七部の蕉翁秘書を合刊して同じ道に遊ぶ人の便とす 小本全二冊 定價金三拾八錢

芭蕉附合評註 翁一世の附合蕉翁太の撰らみとかきと委しく註解して好者の爲に其意をさだめやすくす 懷中本全一冊 定價金拾八錢五厘

俳諧季寄たの袋 凡る俳諧初心の手引となる書数多ありと雖有來にて便少し此季寄本は四季詞草木鳥獸及び月の異名年中行事等都て註を加へ俳諧式法發句仕樣附句の用捨其外極秘傳故實と出せし初心必携の書あり

思之中村貞纂述 博愛與田頼閣正 小本全五冊 定價金壹圓廿五錢

頭書 小學作文教授書 〇初等科(一ノ卷二ノ卷)一ノ卷卷首に俗文要語活用問答、令正談文、俗文復譯法等と掲げ次に日用單

簡文百余章と編〇二ノ卷卷首に俗語若干と掲げ次に四季贈答文、祝賀、悔吊文、電信文、公用文諸証文等數百章と載す

中等科(三ノ卷)(四ノ卷)(五ノ卷)三ノ卷卷首に作文要字和解と掲げ次に雅文に俗語と挿む僅に三十字内外と以て一文成す〇四五ノ卷紀、記事、論、說、題、拔、傳、序、祝文、吊文、祭文等數百編を載す

南泉中村貞著述

開化農商往來

半紙本全一冊

定價廿二錢五厘

此書は農商家の心得日用器具の各目等と掲げ尋常の農商往來と異なり専ら暗誦に便ならんため五七の句調と綴り且習字にも用ひらるべき筆耕と撰みたれり世に兒童一本提携て其裨益と賞ま玉はんとを西敬著書

畫圖入門

横綴本全十冊

一冊ニ付定價

金拾錢

西先生は書學に妙と得らざりと諸君の熟知する處あり今茲に贅言せず此書は中小學校に教則に基き編述せる書にして直線法○曲線法○野畫○紋畫○器用物○家屋○花草○果物○禽獸○人物○等と顯し順序宜きと得彫刻鮮明あると以て教科用も適當なる書と云ふべきを請ふ世に慢然散布はる書學の諸書と同一視するを恐る巻を繕て無瑕完璧なる良書なるを知り玉ふべし

西敬纂譯

近刻

同按影畫法

近刻

入門幾何畫法

近刻

同三部圖式

近刻

此書は用器畫則ち幾何畫法投影法透視法等と詳述せる書おえて教科用適當なるを勿論用器畫と畫字中必要の科にして各府縣教則目録此科あるも未だ發兌れ書を見せ依て教則の順序に隨ひ此書を出版す故に只教科用のみならず工藝家も必讀の書也

鷹野房吉著述

中本全二冊

定價廿五錢

新選作文必用

普通

定價拾七錢

新選女用文章

普通

定價拾七錢

手紙を認めるに解り易き爲同意味の記かへと澤山あるし萬物の類語文章のイロハ引を載せ日用文と若干掲げる重寶の書也

鷹野房吉著述

中本全一冊

定價拾七錢

製本處

製本師 益貞表寅

齊福通北久寶寺

四冊目十八番地

前川源七郎

